



社会福祉法人江東楓の会 編集責任者 理事長 伊藤 善彦
発行所 江東区東陽 4-8-10 202号室 TEL 5617-3750 FAX 5617-3752

理事あいさつ

社会福祉法人江東楓の会 理事 原 隆典

寒暖の差が激しく、体調を整えることも難しい日々が続いていますが、梅の花も咲き、春の足音も聞こえ始めました。皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

今年度を振り返ると、温暖化現象や国際的な政治不安による物価の高騰など悩ましい出来事も多い一年となりました。一方で、パリオリンピック・パラリンピックに熱い歓声を送ったことが印象深い出来事として挙げられます。

当法人につきましては、今年度の報酬改定への対応を進め、障害福祉制度に基づいた運営に向けて意識を高めて取り組んでまいりました。

その中で、江東区あすなろ作業所、第三あすなろ作業所、高齢障害者通所施設さくらの3事業所が江東区による指導検査を受けました。修正が必要となる点がいくつか挙げられましたが、概ね適切に運営できているとの評価を頂きました。

また、今年度については、経営面の強化についても力を入れて取り組んでまいりました。本取り組みを通じて、法人として抑えていくべき点について意識を高めることができたと考えております。

引き続き法人理念の「選択」の場面を大切に利用者支援に邁進してまいります。

今後とも、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



第57回会報テーマは『今年度を振り返って』とさせていただきます。

「自分自身を振り返る」

第三あすなろ作業所 支援員 石井 梨乃

入職して3年が経ち、私個人としても上京して3年が経ちます。上京した時にわくわくしながら作った「東京でやりたいことリスト」の存在を思い出し、書き起こしたメモを見返してみました。書いた当時の記憶はあまり残っていませんが、「東京タワーに行く」、「ばったり芸能人と会う」というようなあまりにも田舎者過ぎる内容ばかりでくすっと笑ってしまいました。

ずっと憧れていた東京ですが、実際に生活を始めるとわくわくした気持ちよりも不安感の方が断然強く、自分だけが置いて行かれているようなそんな気持ちにもなるときもありました。とにかく早く追いつきたくて見よう見まねに必死だった日々を思い出します。時間が経過すると共に関わる人も増え、その方たちがかけてくれる言葉や心遣いに触れ、少しずつ自分の居場所や在り方を見つけることができました。

この季節は毎年寂しくなりがちで、そんな時はいただいた言葉や行動、その時の自分の感情を振り返りながら初心を思い返すようにしています。4年目からも初心を思い返しながら、さらには優しさを受け止めるだけではなく与えられるように、日常を大切にしていきたいと思います。



「一緒に作り上げた笑顔あふれるお祭り」

江東区あすなろ作業所 事務主任 乾 沙織

今年度も残すところわずかとなりました。この一年を振り返ると、さまざまな行事やイベントがありました。中でも、大きなイベントとしてレインボーフェスタが完全復活をしました。

昨年度は小規模に開催されていたレインボーフェスタですが、今年度は施設全館を開放し、地域向けのPRエリアも拡大して開催しました。他施設への宣伝活動も行い、ポスターやチラシを作成し、利用者さんが笑顔で「宣伝してきたよ」と報告してくれたり、ポップ作りでは色を塗ったり、絵を描いたりしてくれました。その姿はとても楽しげで、普段一緒に活動することが少ない事務員としても、お祭りを盛り上げるために協力する時間を共有できたことは貴重な経験となりました。お祭り当日には多くのお客様が訪れてくださり、最後はエイサーを全員で踊って、最高のフィナーレを迎えました。利用者さんたちと一緒に準備したことが、楽しいお祭りの成功につながったと実感しています。

また、保護者の皆さん、ボランティアの皆さん、地域の町会の皆さん、多くの方々の支えにより、お祭りを大盛況のうちに無事終了しました。来年度も感謝の気持ちを忘れず、利用者の皆さんと楽しい時間を共有できるよう、さまざまな行事を企画し、笑顔の絶えない施設となるよう事務員としてサポートしていきたいと思います。

「取り組んだこと」

若竹作業所 支援員 福家 美奈子

今年度作業所として取り組みの一つに、12月より行っている「呼称・敬語強化月間」があります。自身が受けた虐待防止・権利擁護研修や、作業所内でセルフチェックシートを行った際、一番皆が問題として挙げることが多かったため、力を入れて取り組むこととなりました。①利用者さんの名前は苗字か下の名前を、さん付けで呼ぶ。あだ名や略称で呼ばない。②利用者さんに対して敬語で話す。ですます調で話す。～だよ、～でしょ、～じゃんなどフランクな言葉遣いにならないように、など掲示して利用者さんにも実践していく旨を告知しました。いつもと違う職員の言葉遣いとまどう利用者さんもいましたが、如何に普段からきちんとした言葉遣いが出来ていないかを各々が知るきっかけとなるいい機会となりました。

自身で意識しているときは使うことが出来ても、使い慣れていないことから、ふとしたきっかけで元のだらしない言葉遣いに逆戻りしてしまいました。それから月に一度皆で振り返りの時間を設け、自己の今を知る機会となっています。楓の会の行動規範にも『②職員としての適切な言葉遣いを常に心掛けます。』とあります。2番目に記載されているほど大切なことであると自覚し、今後も引き続き毎月が強化月間とし、自然に敬語が使えるよう、自身を高めていきたいと思えます。



「リバーハウスでの一年を振り返って」

江東区リバーハウス東砂 支援員 和泉 佑佳

リバーハウスでは、グループホームのご利用者と一緒に、年に一度お出かけをすることがあります。今年度は幕張新都心のイオンモールに行き、皆で食事を食べたり、買い物をしたり、ゲームセンターで遊んだり…普段の寮生活では経験できない事をして、皆で楽しむことができました。この外出行事の際、新規利用者の方も参加されたのですが、まだまだ相手の好きなこと、苦手なことがわかっていない状態だったため、いろいろな場所にご案内しています。その際、そのご利用者が動物の写真をよく見ていたこともあってペットショップにご案内してみたのですが、ペットショップに到着すると、相手の表情がこわばり緊張している様子がみてとれました。本物の動物は苦手だったのかもしれませんが…。一方で、ゲームセンターに興味を示したり、駄菓子屋でおやつ選びを楽しんだり、普段の寮生活だけでは見ることの出来ない一面を見ることができました。今回の外出のように、様々なことに一緒にチャレンジしたり、経験したりする機会を設けることは、お互いに信頼関係を構築したり、相手に対する理解を深めたりするために大切なことだと思います。そのため、今後も外出だけではなく、季節ごとのイベントなど非日常なことを実施して、皆でいろいろな事を経験していけるといいな～と感じる今日この頃です。

「私が一番目指したいところ」

高齢障害者通所施設さくら 支援員 瀬尾 かおる

昨年の今頃、「今年度を振り返って」という同じテーマでかえでの原稿を依頼され「1年後はやり切った！と言えている自分がいるはず」と書いていたことがつい昨日のようです。

毎年、個別支援計画の振り返りと、次の1年の目標を話し合う個別面談を行っています。その面談を先日、さくらのある利用者のご家族で行った時のことです。普段、物静かな利用者からここから1年間の意向を確認すると「さくらに毎日来たい」との言葉が！驚いたのと同時に思わず、なぜそう思うのかという言葉が口から出ていました。その理由は、さくらに来て皆と会いたい、とのことでした。普段、口に出さなくてもそのような事を思っていたことにとっても嬉しいやらありがたいやら…。そんなさくらは、お休みで来ない利用者や職員が2、3日ぶりに来ると「お久しぶり」「元気だった？」と皆、互いに言い合うことのできる事業所です。少人数だから、かもしれませんが、利用者も職員も小規模だとなかなかできることも限られます。半面、少人数だからこそできることが沢山ある、という側面もあります。さくらは、そんな中で利用者も職員も一緒に楽しもうと自然に思っているところが素敵だなあと、手前みそですが、そんなことを考える場面が多かった一年でした。

また、各利用者が主役になって「さくらに来たい」とずっと思ってもらえるよう、自分たちに何が出来るかを考えながら支援をしていくこと、それは何年経っても自分が支援員として目指すべき道しるべとしていきたいと改めて考えることもできました。

冒頭に書いた前年度末に私自身が掲げた「やり切ること」は自分なりに達成できたと思っています。事前に叶えたい目標を達成できたつもりで言い切ること、具体的にイメージすること。これはとても大事であり、達成できる近道であると思ひ私はいつも実践しています。



「お久しぶり、早寝早起き朝ごはん」

ワークセンターつばさ 支援員 中村 夢夏

今年度の5月に育児休業から時短勤務職員として復職しました。復職直前まで「もう復帰なんて！まだ休んでいたい。社会人人生、こんな長期休暇はもうないかもしれないぞ！」なんて思っていました。子供の世話をしながらゴロゴロ録画を見て好きな時にお菓子を食べる、そんな生活にさようならをする日が来ました。いざ仕事が始まると目まぐるしい毎日にあつという間な1週間。「ああ…これこれ（にやり）」と仕事にプライベートに疲労困憊。毎朝起きるのに必死ですが、それがどこか心地よく、やはり仕事は良いなと感じています。

利用者の皆さんは、私が長い間休んでいたとは思えないくらい自然で、休業前より更にパワーアップした話術と作業ペースに成長を感じ、自分だけが休業前に取り残されないようにと気合が入りました。行事には勤務形態上参加できない事もありましたが、土産話に花を咲かせ、施設内に飾られる写真で一緒に参加した気分になれました。作業だらけの毎日から楽しみが増え、施設全体に笑顔が溢れています！職員の雰囲気も少しずつ変わりました。利用者が帰宅してからの休憩時間、今までは事務処理など諸々の対応をそれぞれが行っていましたが、今はお菓子を頬張り、その日にあった出来事を笑いながら話す時間になりました。毎日その時間が楽しみでもあります。職員間のコミュニケーションも密になり、施設の雰囲気も運氣も気分も上々！職員が楽しそうだと施設全体の雰囲気が良くなりますよね。来年度も職員はじめ利用者と一緒に働くのが楽しい職場にしていきたいです！



「数字と戦うある男の記録」

江東区亀戸福祉園 事務主任 山岡 正広

これは数字と戦うある男の記録である。「何故あわないのだ!？」毎月月初魂の叫び声をあげる。大体の場合自分の入力ミスである。落ち着いて探せば答えは見つかる。数字は嘘をつかない。そして会計ソフトも嘘をつかない。つまり自分の間違えがそのまま返ってきているだけの話である。

劇画風には書き始めましたが、事務員の私にとって説明文やマニュアルなどの文字、日々の収入や支出などの数字は日々相対する仕事のパートナーとなっています。一つ一つ落ち着いて余裕をもって穏やかに仕事をこなしていけば、そうそう間違えることはあまりないのですが…どうしても想定外の仕事が発生したり、予想以上に一つの仕事に時間がかかったりすると気も焦り、後で振り返ると「何でこんな簡単な事に気づかなかったのか」と思うようなミスもしばしばあります。

これからの私の課題は「忙しい時ほど深呼吸をして、頭を落ち着かせること」「一度作成したものをきちんと見直すこと」になるのかなと思っています。最近武田信玄の「一生懸命だと知恵が出る。中途半端だと愚痴が出る。いい加減だと言いつけが出る」という言葉に、一生懸命頑張ろうと自分の心に語り掛けています。

「理想に背を向けず」

楓の会ヘルパーセンター サービス提供責任者 武田 俊彦

ヘルパーセンターとして1年間、大きなアクシデントもなく、支援を継続できました。それは、ご家族や利用者の皆さま、楓の会関係者、ヘルパーさんなど、多くの方からご協力をいただいたからこそだと考えております。この紙面を借りまして、感謝を申し上げたいと思います。大変ありがとうございました。

とはいえ、その裏に支援できなかつた方のことがコインの裏表のように張り付いており、私の心から離れません。年度末が近づくと、いつも以上に新規依頼の電話がかかってくる。どなたからも切迫感や疲労感が伝わってきます。できることならと思いつつ、詳しくご様子をお聞きする前にヘルパーの確保が難しいという、それだけの理由でお断りしているのが現状です。受話器を置き、苦い思いをかみしめながら、予定している利用者さんの支援に向かいます。何年たっても慣れません。

状況の改善に向けて取り組んでいますが、今後も100パーセント満足できる日はこない気がします。それでも、理想を失わず、よりよい支援環境がつかれるよう今後も務めてまいります。お気づきのことがあれば、いつでもお知らせください。来年度もよろしく願いいたします。



「今年度も色んな事がありました…？」

グループホームかえで 管理者 仲俣 圭

あっという間に年を越し、気づけば今年のカレンダーは3枚目に突入しています。そしていよいよ年度末！4月のカレンダーには、どんどん予定が埋まっていきます。「作業所の行事で〇〇に行くんだ！」とか「ガイドヘルプ10:00から」といった楽しい予定もありますが、多くは“××病院9:00予約”とか“採血検査アリ・朝食は抜きで”とかあまり楽しくなさそうな予定でいっぱいです。利用者の平均年齢を考えれば、これもまた自然な事だと思えますが…。

そんなバタバタした毎日を送っていますが、令和6年度はどのような年だったでしょうか？グループホームかえでとしてはそれほど大事はおきず、それなりに利用者全員（世話人スタッフも）元気で過ごしています。

ただ…毎週毎週食材の発注を生協に出していると実感するのは、物価がどんどん上がっていることに！お米はもちろん、ほとんどの調味料も値上がりしています。電気・ガス・水道料金も右肩上がりです。「こまめに節電お願いね」「ああ、そんなにいっぺんにトイレトペーパーを使わないで欲しいなあ」などなどつい口をついてしまいます。もしかしたら皆様のご家庭でも“あるある”な風景かも知れませんね。

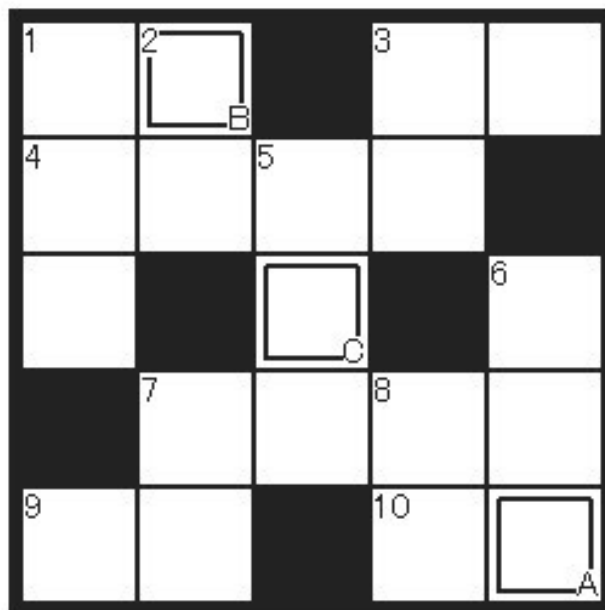
さて今年度も多くの皆さまのご理解ご協力をいただきました。支えて下さった皆様、本当にありがとうございました。また新年度もかわらぬご支援を賜りたく思います。どうかよろしく願いいたします。

編集後記

会員のみなさまには日頃より当法人の運営にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、前回号で、うれしいがたくさんある毎日にしたいといったお話をいたしましたので、最近のうれしかったことをひとつだけ。私にとって、おそらく一生涯この人を越える人はいないと思っている恩師がいます。そう思っている理由の説明はひどく難しく、強いて言えば心をつかまれっぱなしなのです。もうずいぶんとご無沙汰しておりますが、現在副校長をしておられ、とある学校の文集に恩師の文章が載っていると知人が連絡をくれました。そこには、「生きていくことは心を育てていくこと」とあり、先生はおいくつになられてもずっとお変わりないと知れたことに、うれしい気持ちが止まりませんでした。先生のお言葉、みなさまの心にも届きますように… (*^-*)

突然ですが、クロスワードは普段使わない脳が刺激され、思考力や記憶力の向上に役立つみたいです！Let's try!! ↓



🔑 タテのカギ 🔑

- 1 世界〇〇〇発見！
- 2 ABCDE…？
- 3 さくら分室で作っていました！
- 5 冬になるとコンビニの店頭でそそられます…
- 6 みなさん夏に一度は！〇〇〇割！
- 7 ミーンミンミン…
- 8 クマは英語で…

🔑 ヨコのカギ 🔑

- 1 管楽器の一種。横吹き縦吹きのものがある。
- 3 フランスの首都は？
- 4 第三あすなる作業所で作っています！
- 7 ワークセンターつばさで作っています！
- 9 〇〇は広いな、大きいな～♪
- 10 ポストの色は？



令和6年度 後援会会員名簿

<賛助会員> (第56号からつづく)

興水 康弘 鷹木 清光 瀬尾 かおる 神内 梓

(敬称略、順不
同)

(なお、令和7年3月10日以降 賛助会員は次号につづく)

ご寄付

ご寄付を賜り誠にありがとうございました

- 一般社団法人パープル
代表理事 木原 菜々子 様
- 株式会社関東電気サービス
代表取締役 斉藤 清 様

ご寄付いただいたものは、法人の事業に使わせて頂いております